

ワークシート 1-1

背景
目的
対象
主要な要因
主要なアウトカム
研究デザイン
解析方法
結果
結論

ワークシート 2-1 CQを整理しよう

テーマ

病気や診療の実態を調べる

診断法や検査法を評価する

要因とアウトカムの関連を調べる

治療の効果を調べる

ワークシート 3-1 PECOをチェックしよう

CQ :

Before	P	対象
	E	要因
	C	比較対照
	O	アウトカム
改善のポイント	F	Feasible 実施可能な
	I	Interesting 関心深い
	R	Relevant 切実な
	M	Modifiable 改善可能な
	M	Measurable 測定可能な
	N	Novel 新規性のある
	E	Ethical 倫理的な
	S	Specific 明確な
After	P	対象
	E	要因
	C	比較対照
	O	アウトカム

ワークシート 4-1 測定のデザイン

	要因(比較対照)	アウトカム
1. 何を測定するか		
2-1. 何で測るか 「ものさし」の選択		
2-2. 良い「ものさし」か		
3. 「ものさし」の使い方 1) いつ 2) どこで 3) 誰が 4) どうやって		

ワークシート 5-1 アウトカム指標の選択

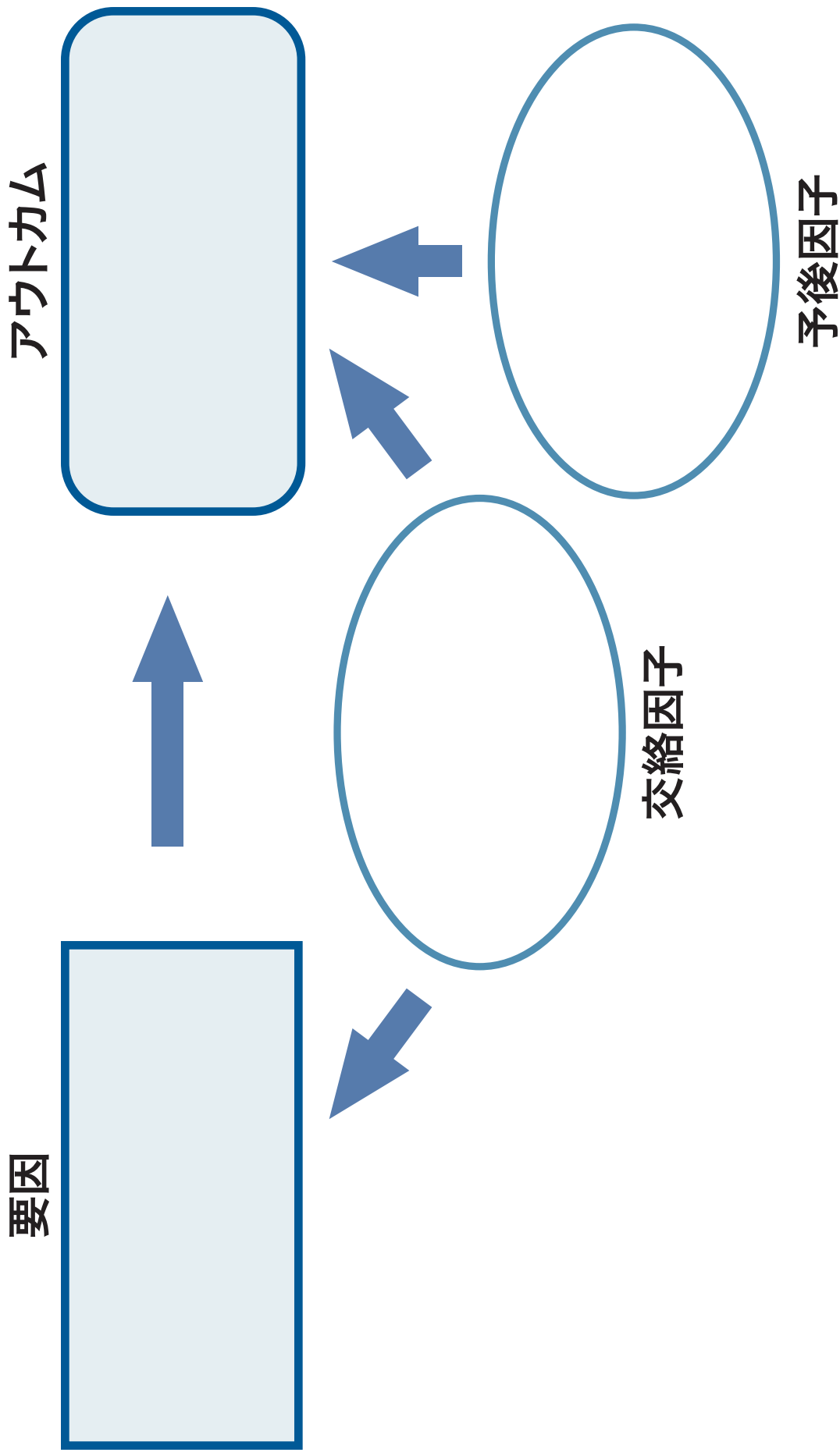
RQ	アウトカム変数	アウトカム指標
<p>P</p>	<p>アウトカム変数の定義 アウトカムは どのように定義されますか？</p>	<p>アウトカム指標の選択 アウトカム指標は 何を選択しますか？</p>
<p>E</p>		<p>アウトカム指標選択の理由</p> <hr/> <p>アウトカム指標の算出法</p>
<p>C</p>	<p>アウトカム変数の種類 アウトカム変数の 種類はなんですか？ 取りうる値は？</p>	
<p>O</p>		

ワークシート 6-1 研究デザインの「型」の選択

RQ	研究デザインの「型」	わかること	課題
P	記述研究 (E/Cなし)		
E(I)	横断研究		
C	コホート研究		
O	ランダム化 比較試験		

ワークシート 7-1 第3の因子の種類

第3の因子	アウトカムへの影響	因子と関連	要因の結果	種類
例) 年齢	○	○	×	交絡因子



ワークシート 7-3 交絡因子の影響

交絡因子	要因→アウトカム	交絡因子→アウトカム	交絡因子→要因	影響の方向
例) 年齢	プラス	プラス	マイナス	過小評価

ワークシート 8-1 選択バイアス

	研究計画		結果を 当てはめたい集団
	対象者の条件	セッティング	
対象者の背景 ・ 年齢が偏っている ・ 併存症が偏っている など			
アウトカムを起こす頻度 ・ アウトカムの頻度が高い など			
要因の分布 ・ 要因の分布が多い など			
ギャップの影響 ・ アウトカム発生頻度の 少ない偏った集団の結果 である可能性 など			

ワークシート 8-2 情報バイアス

	要因	アウトカム
何を測定するか (要因やアウトカムの定義)		
何で測定するか (尺度、検査法など)		
どうやって測定するか (1) いつ (2) 誰が (3) どこで		
測定が歪められる 可能性		
予防法		

ワークシート 9-1 サンプルサイズ 1

RQ	アウトカム変数	効果の指標
P	<p>アウトカム変数の定義 アウトカムはどのように定義されますか？</p>	<p>効果の指標の選択 アウトカムの指標は何を選択しますか？</p>
E		
C	<p>アウトカム変数の種類 アウトカム変数の種類はなんのでしょうか？ 取りうる値は？</p>	<p>効果の指標の選択の理由</p>
O		<p>効果の指標の算出法</p>

サンプルサイズの仮定	サンプルサイズ
α エラー =	単変量解析
β エラー =	
効果の指標 =	
効果(関連)の大きさ =	多変量解析 解析方法 =

ワークシート 10-1 研究デザイン

RQ	研究デザインの型	アウトカム指標
P	介入の有無： 比較の有無： 測定のタイミング： 観察の方向：	アウトカム指標の選択
E		
C	選ばれたデザイン：	アウトカム指標選択の理由
O		

ワークシート 10-2 解析方法の選択

解析の目的	解析方法
ばらつきの記述	
単純な比較	
交絡調整した比較	
予想される結果	